

(別紙5)

整理番号 2018P-082

補助事業名 平成30年度 親と子のふれあい交流活動 補助事業

補助事業者名 公益社団法人 国際演劇協会日本センター

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

朗読劇として評価が高い『この子たちの夏 1945・ヒロシマ ナガサキ』を若い世代の人たちに観てもらう機会を広げ、2～3世代の親子、家族がこの作品と一緒に観ることで、戦争と平和について語り合うきっかけを提供することを目指す。また、「ヒロシマ」「ナガサキ」は諸外国でも学校で習う内容であり、英語イヤホンガイドの無料提供や、ヒロシマおよび空襲をテーマに作品作りをしているマリゴールド・ヒューズ氏(U.K.)によるトークによって国際的な対話も促進する。さらに、初演から33年を迎えてなお、遺族の方々との連携を保ちつつ上演を続ける本作の存在を広く報せることで、ユネスコ傘下の団体として「演劇を通じた相互理解の促進による平和の構築」というユネスコ憲章の理念を目指す。

(2) 実施内容

朗読劇『この子たちの夏 1945・ヒロシマ ナガサキ』の上演と関連イベント

<https://iti-japan.or.jp/summer/>

1) 搬入 (2018年8月3日)



2) 上演日 (8月4日、5日) には、ロビーに補助事業のポスターを展示した。
小さな子どもも来場した。



(別紙5)

3) 『この子たちの夏』上演(8月4日、5日)左上から上演風景、8月4日(マチネ)に出演した桜町高校の生徒たちと作・演出の木村光一、俳優の高安智実、同日ソワレの出演者たち、8月5日の出演者たちと木村。



4) 8月4日、関連企画(マリゴールド・ヒューズ氏によるトーク「日本とイギリス 戦時下の子どもたち 1945-2018-その声を演劇で語り継ぐこと」)を三軒茶屋キャロットタワー2F八角堂で実施。演劇による戦争体験の継承や世代間・国際間の平和をめぐる対話の促進について考えるこのイベントは、『この子たちの夏』の意義を広める機会となり、客層の拡大にもつながった。また、フランスからの来場者もあり、国際的な対話の場ともなった。



(別紙5)

5) 8月4日、関連企画(マリゴールド・ヒューズ氏と市村作知雄氏による『この子たちの夏』およびマリゴールド・ヒューズ氏の手がけたヒロシマやロンドン空襲をテーマにした作品をめぐる対談)をせたがや文化財団会議室にて実施。対談の内容は後日、下記ウェブサイトに掲載した。

http://iti-japan.or.jp/summer_talk2018/



6) マリゴールド・ヒューズ氏による広島視察。8月10日と11日に、広島アステールプラザで『ヒロシマの孫たち』の上演が行われ、ヒューズ氏は稽古と本番に立ち会い、上演前のトークでは『この子たちの夏』についても言及していただいた。



2 予想される事業実施効果

記憶の伝承と戦争・非核をめぐる世代間、国際間の対話、国際交流が見込まれる。また、今回、マリゴールド・ヒューズ氏とともに広島を訪問し、広島の研究や広島で『ヒロシマの孫たち』を上演する団体と交流をしたことにより、ジョイントプログラムの可能性も見えてきた。

3 補助事業に係わる成果物

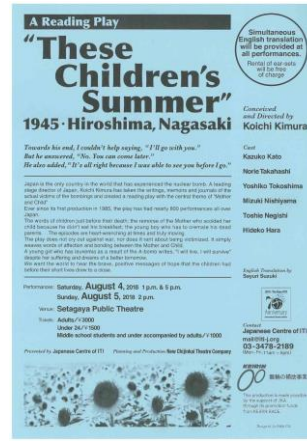
(別紙5)

(1) 補助事業により作成したもの

(事業報告) <https://iti-japan.or.jp/summer/>

(座談会報告ページ) <https://iti-japan.or.jp/summer/>

【広報資料】上段左より日本語チラシ表、同裏、英語チラシ、広告データ、掲載誌、パンフレット(表紙、扉)



(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

(別紙5)

特になし

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益社団法人 国際演劇協会日本センター
(コクサイエンゲキキョウカイニホンセンター)

住 所： 〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1国立能楽堂内

代 表 者： 会長 永井 多恵子 (ナガイ タエコ)

担 当 部 署： 事務局 (ジムキョク)

担 当 者 名： 事務局 後藤絢子 (ゴトウ アヤコ)

電 話 番 号： 03-3478-2189

F A X： 03-3478-7218

E - m a i l： mail@iti-j.org

U R L： <https://iti-japan.or.jp/>